

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ケンサキイカ

学名 *Loligo edulis*

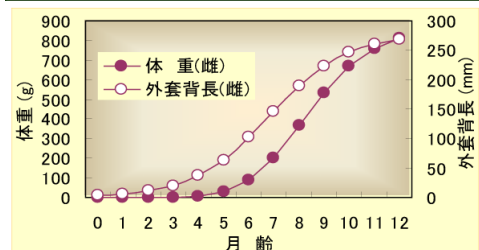
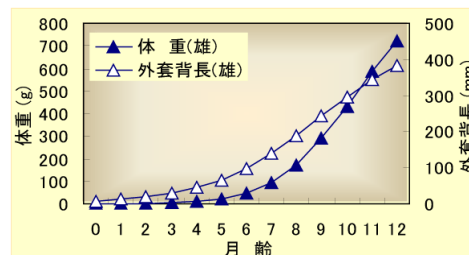
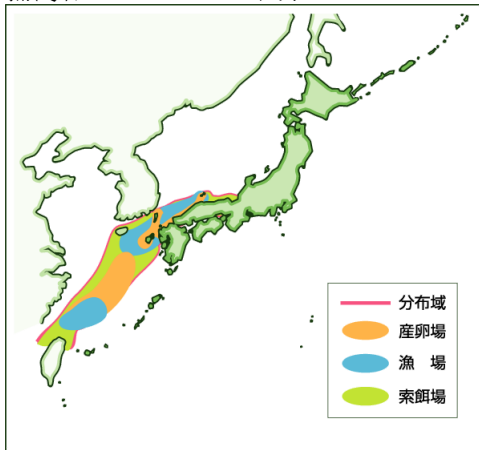
系群名 日本海・東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 1年
成熟開始年齢: 外套背長70～80mm(約5カ月)
産卵期・産卵場: 周年産卵するが、産卵盛期は春季、夏季、秋季、主に沿岸域で卵塊が発見されており、砂地を好んで産卵する
索餌期・索餌場: 周年、分布海域
食性: 小型の魚類、甲殻類、軟体類を捕食、小型個体では主に甲殻類を捕食、成長に伴い魚類を主体に捕食
捕食者: 不明

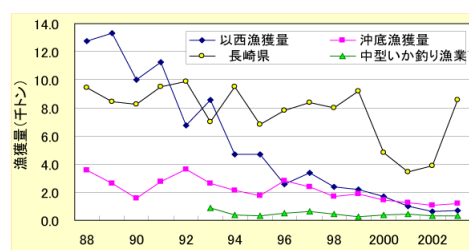
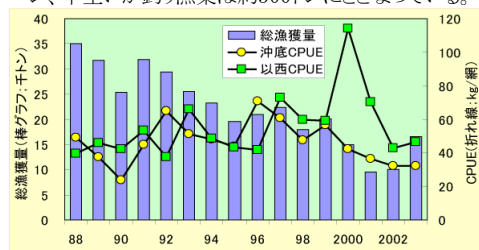


漁業の特徴

沿岸域では主にいか釣り漁業によって漁獲されており、長崎県が総漁獲量に大きな割合を占め、盛漁期は夏季である。沖合域では底びき網漁業が主体となる。沖合底びき網漁業では長崎県沖合～山陰沖の広範囲に漁場が形成される。東シナ海では以西底びき網漁業が主体となり、主に夏季に東シナ海南部で漁場が形成される。近年では6～10月に東シナ海南部で中型いか釣りの試験操業が行われている。

漁獲の動向

沿岸と沖合域を合わせた漁獲量は1993～1999年には毎年20,000トン前後であったが、2001～2002年は約10,000トンにまで減少した。沿岸域では2003年は漁獲量が増加し、約14,000トンの漁獲があった。沖合域で主体となる漁業はいずれも漁獲量の低迷が続いており、2003年の沖合底びき網漁業は約1,000トン、以西底びき網漁業は約700トン、中型いか釣り漁業は約300トンにとどまっている。



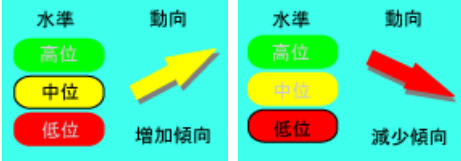
資源評価法

沖合域で主に行われる以西底びき網漁業、沖合底びき網漁業、中型いか釣り漁業、および沿岸域で主体となるいか釣り漁業の漁獲動向から資源動向を判断した。以西底びき網漁業、沖合底びき網漁業では漁獲努力量が減少しており、特に以西底びき網漁業で減少傾向が著しいことから、CPUE(努力量あたり漁獲量)を資源動向の指標と考えた。沿岸域については各県代表港のいか釣り漁業の漁獲量およびCPUEを資源状態の指標として考えた。

資源状態

沖合域での漁獲の主体となる沖合底びき網漁業、以西底びき網漁業、中型いか釣り漁業のいずれも漁獲量およびCPUEは減少傾向が続いており、低い水準にある。一方、沿岸域で主体となるいか釣り漁業の各県代表港における漁獲量およびCPUEは、ばらつきがあるものの2003年には増加傾向に転じ、おおむね中水準にあった。本種を漁獲対象とする漁業種類が多く、それぞれの漁獲の動向が異なるため、漁業の現状を考慮に入れ、ここでは沖合域と沿岸域と

に分けて資源水準および動向について判断し、沖合域では低水準・減少傾向、沿岸域では中水準・増加傾向と判断した。



沿岸域 沖合域

管理方策

2003年の沿岸域における漁獲量は増加に転じたが、沖合域では依然として減少傾向が続いていることから、沿岸域では現在の資源状態を維持することを目標とし、沖合域では資源状態を回復することを目標とした。沿岸域では漁獲量の大きな割合を占める長崎県いか釣り漁業代表港におけるCPUEの増加率を、沖合域では以西底びき網漁業のCPUEの減少率を参考にして、沿岸域の平均漁獲量×1.3と沖合域の平均漁獲量×0.5の合計をABClimitとした。ABCtargetは安全率を考慮してABClimit×0.8とした。

	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	14千トン	1.3Cave3-yr(沿岸域) 0.5Cave3-yr(沖合域)	-	-
ABCtarget	11千トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 沿岸域では漁獲量の減少に歯止めがなかったとみられる
- 沖合域では依然としてCPUEの減少傾向がみられ、漁獲量も低迷している

管理方策のまとめ

- 沿岸域では現在の資源水準を維持し、沖合域では回復させることを管理目標とする

資源評価は毎年更新されます。